

英文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
英文学概論	近現代の悲劇文学入門	2	大貫 隆史	3	前期火曜日2講時	
英文学概論	英詩入門	2	大河内 昌	4	後期木曜日1講時	
英文学基礎講読Ⅰ	Lafcadio Hearn, Kwaidan	2	竹森 徹士	3	前期木曜日3講時	
英文学基礎講読Ⅱ	Raymond Carver, Cathedral	2	大河内 昌	4	後期水曜日2講時	
英文学・英語学基礎講読Ⅰ	Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go: Reading Contemporary Fiction.	2	TINK JAMES MICHA	3	前期木曜日3講時	
英文学・英語学基礎講読Ⅱ	Introduction to William Shakespeare: Macbeth	2	TINK JAMES MICHA	4	後期木曜日3講時	
英文学各論	Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray	2	大河内 昌	5	後期火曜日1講時	
英文学各論	社会文化的コンテクスト から読むイギリス小説- -ヴィクトリア朝から初 期エドワード朝にかけて	2	伊藤 正範	集中(5)	集中講義	
英語文化論各論	20世紀ウェールズ英語 文学を読む	2	大貫 隆史	6	後期火曜日2講時	
英文学講読	Postwar British Fiction	2	TINK JAMES MICHA	6	後期月曜日2講時	
英文学演習Ⅰ	Jane Austen, Mansfield Park (1)	2	大貫 隆史	5	前期火曜日3講時	
英文学演習Ⅱ	Jane Austen, Mansfield Park (2) and Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day	2	大貫 隆史	6	後期火曜日3講時	
英文学演習Ⅲ	Cranford and Victorian Culture	2	TINK JAMES MICHA	5	前期月曜日2講時	

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：大貫 隆史

コード：LB32202, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代の悲劇文学入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Modern Tragic Literature

3. 授業の目的と概要：「大きな苦しみ」や「死」に出くわすという経験は、ごく個人的なもので、他人がそれを理解することはごく難しいことのようにも思えます。しかし、「悲劇文学」とは、そうした苦しみを経験を、どうにかして共有していこうという試みが為されてきたジャンルのことでもあります。本講義では、英語圏における近代の悲劇文学を、ヨーロッパ近代という視点も手放さずに論じていきます。なお、講義に加え、毎回一名ないしは二名の担当者に短めの発表をしてもらいます。担当者は、該当箇所を日本語に翻訳し、コメントをしてください。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Going through extreme suffering or encountering death seems to be so private or individual experience that others cannot possibly understand that process. Nonetheless, "tragic literature" is a genre in which various tragic writers have been striving to share those experiences of suffering with other people. This course will argue about the modern tragic literature in the English language as we are considering it to be the modern European experience as well. At each class session, one or two students will be asked to translate and make a comment on the assigned part.

5. 学修の到達目標：(1) 近代演劇及び小説の基本的な形式について理解を深める

(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める

(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) To understand basic forms of the modern drama and novel

(2) To understand literature as a medium of communication

(3) To build up a competency to read English literary texts

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (1)

3. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (2)

現代にあって「悲劇」は可能なのか？ 甚だしい苦しみや死の経験に、何らかの「かたち (forms)」を与えられる、というのは、一種の欺瞞ではないのか、といったいわば当然の疑問を、ウィリアムズとスタイナーを通して考える。

4. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン (1)

5. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン (2)

何か邪悪なものと戦っているはずの人間が、その当の邪悪なものに、実のところ取り込まれてしまっていた、という苦しみを経験を、レイモンド・ウィリアムズは、「リベラル悲劇」と命名した。これを、ミラーとイブセンの作品を通して考察し、果たして、「リベラル悲劇」が 2010 年代の現在、アクチュアルな「かたち (form)」たり得ているかどうかとも考えてゆく。

6. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ (1)

7. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ (2)

「家」の中で起きている「私的」な経験のなかにも、「はなはだしい苦しみ」は当然存在している。この見逃されやすい悲劇的经验を、ウィリアムズは「私的悲劇」とカテゴライズした。このアクチュアルな悲劇形式を、二人の劇作家を通して考察する。

8. まとめと中間テスト

9. D・H・ロレンスとトルストイ (1)

10. D・H・ロレンスとトルストイ (2)

「私的悲劇」では、「社会」という観点は強調されにくいのだが、ロレンスやトルストイに見られる「個人的かつ社会的悲劇」というカテゴリーでは、「個人」と「社会」の関係に潜む苦しみを経験こそが問題となる。これを、ロレンスとトルストイの小説を素材に探る。

11. サミュエル・ベケットとベルトルト・ブレヒト (1)

12. サミュエル・ベケットとベルトルト・ブレヒト (2)

これまで見てきた悲劇のフォームは、そのどれもが、「はなはだしい苦しみ」をどうにかして共有し、かつ、その苦しみをもたらす（実は誤って見定められているのだとしても、その）元凶を変えていこうという意図がそこには込められていた。しかし、ベケット劇では、そうした意図が消えてしまっているようにも見える。この問題を、悲劇そのものの拒絶を意図するブレヒトとあわせて探る。

13. ディスカッション (1)

14. ディスカッション (2)

15. まとめと最終テスト

8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・中間及び最終試験 50%

9. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布します。

参考書：Raymond Williams, Modern Tragedy (Broadview, 2006)

10. 授業時間外学習：授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること

Students are required to read the assigned part before each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB44102, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英詩入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to English Poetry

3. 授業の目的と概要：英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもありません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ルネサンスから 20 世紀に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。詩はジャンルや約束事が分からないと理解できない作品が多いので、そうした事項を説明しながら詩のテキストを読解してゆきます。詩は読者から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずで

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture covers English poetry from the Renaissance to the 20th century, focusing on famous poems in these periods. Because poetry is usually written based on literary tradition and conventions, this lecture pays attention to the knowledge of literary genres and conventions. Generally speaking, poems don't talk to you if you don't approach to poems for yourself, but if you ask questions to poems, they will surely give you rewarding answers.

5. 学修の到達目標：(1) 英文学史の知識を身につける

(2) 英語読解力を身につける

(3) 分析的思考力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of English literary history

(2) To be able to think logically and critically

(3) To develop the skill of reading literary texts written in English

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(1) Introduction

(2) Sonnets in the Renaissance: Shakespeare

(3) Sonnets in the Renaissance: Sidney & Spenser

(4) Metaphysical Poets: John Donne

(5) Metaphysical Poets: George Herbert

(6) Poems in neo-classicism: Pope & Dryden

(7) Pre-romantics: Collins & Gray + midterm exam.

(8) Romantic Poets: William Wordsworth

(9) Romantic Poets: Keats & Shelley

(10) Victorian Poets

(11) Emily Dickinson

(12) Poetry in the Modern Era: T. S. Eliot

(13) Poetry in the Modern Era: W. B. Yeats & W. H. Auden

(14) Poetry in the Modern Era: Some American Poets

(15) Review and term-end exam

8. 成績評価方法：

中間テスト 50%、 期末テスト 50%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します

10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学基礎講読 I / English Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

Semester : 3 単位数 : 2

担当教員：竹森 徹士

コード：LB34301, 科目ナンバリング：LHM-LIT215J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Lafcadio Hearn, Kwaidan
2. Course Title (授業題目)：Lafcadio Hearn, Kwaidan
3. 授業の目的と概要：この授業では英文学のなかでもとりわけ良く知られた作品を取り上げ、語学的、文学的な観点から作品を精読します。作品の読解を通して、作品の特質や背景を学び、英語表現の豊かさ、物語の面白さを探りましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class will examine a variety of English Literature through the reading of major texts and aim to be an enjoyable academic introduction to the study of English literature. Our objective is to understand how literary texts work and to develop an appreciation of literature in English. Each class will begin with brief presentations by several students about the storyline and comments on the text, then follow the discussion based on the presentations and comments by the instructor.
5. 学修の到達目標：(1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
(2) 文学作品を分析する技法を身につける
(3) 自分の意見を発表する力を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To develop the skill of reading literary texts in English
(2) To be able to analyze literary texts
(3) To develop the skill of presentation
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) イントロダクション
 - (2) "The Story of Mimi-Nashi-Hoich"
 - (3) "Oshidori," "The Story of O-Tei"
 - (4) "Ubazakura," "Diplomacy"
 - (5) "Of a Mirror and a Bell," "Jikininki"
 - (6) "Mujina," "Rokuro-Kubi"
 - (7) "A Dead Secret," "Yuki-Onna"
 - (8) "The Story of Aoyagi," "Jiu-Roku-Zakura"
 - (9) "The Dream of Akinosuke," "Riki-Baka"
 - (10) "Hi-Mawari," "Horai"
 - (11) "Butterflies"
 - (12) "Butterflies"2
 - (13) "Mosquitoes"
 - (14) "Ants"
 - (15) 全体のまとめ
8. 成績評価方法：

発表と授業参加 40%・レポート 60%
9. 教科書および参考書：

Lafcadio Hearn, Kwaidan: Ghost Stories and Strange Tales of Old Japan (Dover)
大学生協書籍部で購入してください。
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学基礎講読Ⅱ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-LIT216J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Raymond Carver, Cathedral
2. Course Title (授業題目)：Raymond Carver, Cathedral
3. 授業の目的と概要：レイモンド・カーヴァー (1938-1988) の短編集『大聖堂』を精読します。日本でもカーヴァーは村上春樹が絶賛し翻訳していることで有名です。カーヴァーは現代アメリカで生きる人々の憂鬱な内面を精緻に描く短編を多く書きました。この授業では作品の精読を通して、小説作品を合法的に読む方法を身に付けることを目標とします。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Close reading of Raymond Carver's Collected short stories "Cathedral." Carver is famous even in Japan because Haruki Murakami praised him, translating many of his books. Carver depicts elaborately a melancholic inside of ordinary people living in modern America. In this seminar we learn the method of reading novels critically. In each class, three students make a report on the contents of the text and all students make discussion based on their report.
5. 学修の到達目標：(1)小説の英語を読解する力を身につける
(2)小説分析の技法を身につける
(3)発表力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To acquire the knowledge of English literary history
(2)To be able to think logically and critically
(3)To improve the skill of reading literary texts written in English
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) "Preservation"
 - (3) "The Train"
 - (4) "Feathers" (1)
 - (5) "Feathers" (2)
 - (6) "Preservation"
 - (7) "Small Good thing" (1)
 - (8) "Small Good thing" (2)
 - (9) "Careful"
 - (10) "Where I'm Calling From"
 - (11) "Fever" (1)
 - (12) "Fever" (2)
 - (13) "The Bridle"
 - (14) "Cathedral"
 - (15) Review and exam
8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%
9. 教科書および参考書：

Raymond Carver, Cathedral (Vintage 2009)
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学・英語学基礎講読 I / English Literature and Linguistics (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 木曜日 3 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB34302, 科目ナンバリング：LHM-LIT217E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go: Reading Contemporary Fiction.
2. Course Title (授業題目)：カズオ・イシグロ「わたしを離さないで」：現代小説を読む
3. 授業の目的と概要：Kazuo Ishiguro's novel Never Let Me Go (2005) is one of the most acclaimed British novels of recent years. A science fiction story about young people and medical science, it has become a part of contemporary debates about liberal society and technology. In this course, we will read the novel and consider the arguments of that critical debate; especially, what the novel suggests about ideas of ethics and emotions in contemporary literature, cultural theory, and popular science. Students should read twenty of thirty pages of the novel each week, which will then be introduced and discussed in the class, along with other relevant material.
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：カズオ・イシグロの小説『わたしを離さないで』(2005 年)は、近年最も評価の高い英国の小説の 1 つです。若者と医学についての空想科学小説であり、リベラルな社会と技術についての現代の議論の一部になっています。このコースでは、小説を読み、その批判的な議論の議論を検討します。特に、小説が現代文学、文化理論、およびポピュラーサイエンスにおける倫理と感情のアイデアについて示唆していること。生徒は毎週 20 ページの小説を読む必要があります。その後、小説は他の関連資料とともにクラスで紹介され、議論されます。
5. 学修の到達目標：1: To read and analyse a contemporary novel In English by reading it in weekly instalments.
2: To study several approaches for better understanding the novel and contemporary literature
3: To explore some important arguments in the contemporary humanities and social sciences around the topics of ethics, emotions and technology.
4: To improve writing, listening and discussion skills in English.
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1：毎週英語で現代小説を読んで分析します。
2：小説や現代文学をよりよく理解するためのいくつかのアプローチを研究する
3：倫理、感情、テクノロジーのトピックに関する現代人文科学と社会科学のいくつかの重要な議論を探ります。
4：英語のスキルを向上させる（話すことと書くこと）
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
Week 1: Introduction

Week 2: Never Let Me Go Chapter 1

Week 3: Chapter 2

Week 4: Chapter 3-4

Week 5: Chapters 5-6.

Week 6: Chapters 7-9

Week 7: Chapters 10-12.

Week 8: Chapters 13-15.

Week 9: Chapters 16-17.

Week 10: Chapters 18-20.

Week 11: Chapters 21-23.

Week 12: Never Let Me Go and Postwar Humanist Fiction

Week 13: Never Let Me Go: Science Fiction and the Dystopian Novel.

Week 14: Conclusion

Week 15: Final Test
8. 成績評価方法：

Two tests (40%) Term paper (30%) written assignments (reaction papers or quizzes) 30%

9. 教科書および参考書：

Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go (Faber, 2005)

10. 授業時間外学習：Two tests

One essay

Short online writing assignments (reaction comments and short answers)

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

This class will be taught English.

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅱ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

semester：4 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB44301, 科目ナンバリング：LHM-LIT218E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Introduction to William Shakespeare: Macbeth

2. Course Title (授業題目)：ウィリアムシェイクスピア入門：マクベス

3. 授業の目的と概要：Macbeth is one of the most popular plays by William Shakespeare. This class is an introduction to the play and the work of Shakespeare in English and world literature. During the semester, we will read the play in episodes each week and use the class to discuss approaches to it. Topics will include: the convention of renaissance theatre in England; the idea of tragedy in literature; popular ideas of magic and witches in renaissance England; historical approaches to the play; global and intercultural styles of Macbeth, including Japanese Macbeth. Classes will involve a short lecture/presentation by the instructor, viewing film adaptations of the play, and group discussion exercises.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：マクベスは、ウィリアムシェイクスピアの最も人気のある戯曲の1つです。このクラスは、シェイクスピアの演劇と英語および世界文学の作品の紹介です。学期中、私たちは毎週エピソードの演劇を読み（そしてクラスで映画の適応を見て）、それへのアプローチを議論するためにクラスを使用します。トピックは次のとおりです。イギリスのルネッサンス劇場。文学における悲劇の考え；ルネッサンスイングランドで人気のある魔法と魔女のアイデア。ドラマへの歴史的アプローチ；日本のマクベスを含む、マクベスのグローバルで異文化的なスタイル。クラスには、インストラクターによる短い講義/プレゼンテーション、劇の映画版の鑑賞、グループディスカッションの演習が含まれます。

5. 学修の到達目標：1: To read a play by Shakespeare in English

2: To introduce basic approaches to understanding Shakespeare

3: To improve knowledge of Shakespeare in the history of English Literature

4: To introduce international approaches to Shakespeare

5: To improve English communication skills by instructor presentations and discussions

6: To write assignments in English

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1：シェイクスピアの戯曲を英語で読む

2：シェイクスピアを理解するための基本的なアプローチを紹介する

3：英文学の歴史におけるシェイクスピアの知識を向上させるため

4：シェイクスピアへの国際的なアプローチを紹介する

5：インストラクターによるプレゼンテーションとディスカッションにより、英語のコミュニケーションスキルを向上させる

6：英語で課題を書く

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

Week 1: Introduction

Week 2: Macbeth part 1

Week 3: Macbeth part 2

Week 4: Macbeth part 3

Week 5: Macbeth part 4

Week 6: Macbeth part 5

Week 7: Macbeth part 6

Week 8: Macbeth part 7

Week 9: Macbeth part 8

Week 10: Macbeth part 9

Week 11: Macbeth part 10

Week 12: Macbeth and adaptation

Week 13: Macbeth and Global Shakespeare

Week 14: Macbeth in Japan: Kurosawa Akira

Week 15: Test

8. 成績評価方法：

Two tests 50%; Short writing assignments 25%; Final essay 25%

9. 教科書および参考書：

William Shakespeare, Macbeth (Cambridge School Shakespeare 3rd edition, 2014)

10. 授業時間外学習：Two tests (mid-term and end-of-term)

Short writing assignments (reaction appears and paragraph writing)

One short essay

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

Office Hour: Wednesday 1300-1430 Arts 832

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LB52101, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray

2. Course Title (授業題目)：Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray

3. 授業の目的と概要：19 世紀末の作家 Oscar Wilde の The Picture of Dorian Gray を精読します。この作品はある美青年が自分の美しい肖像画に魅了されることで破滅するというゴシック小説です。唯美主義やドッペルゲンガーといったテーマを含んでいますが、それはおそらく表象と実体の区別の難しさという問題に収斂してゆきます。この授業では作品の精読を通して、小説作品を合法的に読む方法を身に着けることを目標とします。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Close reading of Oscar Wilde's The Picture of Dorian Gray. This is a gothic-novel which deals with the story of a beautiful young man who ruins himself because he is attracted by his own portrait. This novel includes such interesting themes as doppelganger and aestheticism, but these problems are centered on difficulty of making distinction between reality and representaeion. In this semiar we learn the method of reading novels critically. In each class, three students make report on the contents of the text and we make discussion based on the report.

5. 学修の到達目標：(1)小説の英語を読解する力を身につける

(2)小説分析の技法を身につける

(3)発表力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)To aquire the knowledge of English literary history

(2)To be able to think logically and critically

(3)To develop the skill of reading literary texts written in English

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(1)Introduction

(2)Chapters 1-2

(3)Chapter 3

(4)Chapter 4

(5)Chapter 5

(6)Chapters 6-7

(7)Chapters 8-10

(8)Chapters 11-12

(9)Chapters 13-14

(10)Chapter 15

(11)Chapter 16

(12)Chapters 17-19

(13)Chapter 20

(14)Discussion

(15)Review and exam

8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

9. 教科書および参考書：

Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray (Oxford World' s Classics, 2006)

大学生協書籍部で購入してください。

10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：5 単位数：2

担当教員：伊藤 正範

コード：LB98811, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会文化的コンテキストから読むイギリス小説--ヴィクトリア朝から初期モダニズムにかけて
2. Course Title (授業題目)：Reading British Novels in Social and Cultural Contexts: From the Victorian to Early-Modernist Eras
3. 授業の目的と概要：小説の形式や内容が時代を追って変化していくというのは言わずもがなですが、その変化は常に背後にある社会や文化と密接なつながりを持っています。この授業では、主に 19 世紀から 20 世紀初頭のテキストを取り上げながら、産業革命を経た都市における労働、群衆、商業、ジャーナリズムのあり方の変化、さらにダーウィニズムの出現と浸透に伴う退化への不安が、リアリズムからモダニズムへと推移していく小説の語りによどのような影響を与えたかを探っていきます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The form and content of the novel changes over time, and the change always has a close connection with social and cultural backgrounds. This course mainly focuses on 19th- and early 20th-century novels to investigate how the transition in the ways of labour, crowds, commerce, and journalism in cities, as well as the growing anxiety over degeneration following the appearance of Darwinism, affected the formation of fictional narrative between the Victorian and early-modernist eras.
5. 学修の到達目標：(1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
(2) 社会文化的コンテキストと関連づけながら文学作品を分析する技法を身につける
(3) 19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのイギリス小説に関する知識を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To develop the ability to read literary texts written in English.
(2) To acquire skills in analysing literary texts in the light of social and cultural contexts.
(3) To acquire knowledge about British novels between the 19th and early 20th centuries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) Introduction
 - 2) Charles Dickens, Barnaby Rudge; Gustave Le Bon, The Crowd 【群衆】
 - 3) Dickens, Oliver Twist 【群衆、ジャーナリズム】
 - 4) Charlotte Brontë, Shirley 【群衆、労働運動】
 - 5) Elizabeth Gaskell, Mary Barton; North and South 【群衆、労働運動】
 - 6) Thomas Hardy, Jude the Obscure 【群衆、ジャーナリズム】
 - 7) Charles Darwin, The Voyage of the Beagle 【ダーウィニズム】
 - 8) Bram Stoker, Dracula; Cesare Lombroso, Criminal Man [+ Aliens; Avatar] 【ダーウィニズム、退化論】
 - 9) H. G. Wells, The Time Machine; The Invisible Man 【ダーウィニズム、退化論、群衆】
 - 10) Wells, Tono-Bungay 【商業】
 - 11) Joseph Conrad, Heart of Darkness [+ Apocalypse Now] 【群衆、ジャーナリズム、退化論】
 - 12) Conrad, The Nigger of the “Narcissus” (1) 【群衆、労働運動、退化論】
 - 13) Conrad, The Nigger of the “Narcissus” (2) [+ Cockneys vs Zombies; 28 Weeks Later] 【群衆、労働運動、退化論】
 - 14) Conrad, The Secret Agent (1) 【商業、群衆、ジャーナリズム、退化論、テロリズム】
 - 15) Conrad, The Secret Agent (2) 【商業、群衆、ジャーナリズム、退化論、テロリズム】
8. 成績評価方法：
授業参加 50%、レポート 50%
9. 教科書および参考書：
なし（授業にてプリント配布）
10. 授業時間外学習：すべてでなくとも構いませんので、扱う作品のいくつかをあらかじめ読んでおくようにしてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
なし

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大貫 隆史

コード：LB62203, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：20世紀ウェールズ英語文学を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Welsh Writing in English
3. 授業の目的と概要：ウェールズ英語文学は、基本的に、ウェールズの書き手ないしは、その文学的なキャリア形成がウェールズと緊密に関わっている書き手によって書かれた、一群の文学のことを指します。ウェールズ英語文学の重要な特徴のひとつは、その大半の作品が、支配階級のバックグラウンドを持つ書き手によって作られたとは言えない部分にあります。ウェールズの内外で、ウェールズ英語文学の研究は、近年活発に展開されるようになってきました。この講義では、こうした学術的な展開を踏まえつつ、ウェールズ英語文学の代表的な作品を読んでいます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Welsh Writing in English is a body of literary writings basically written by writers in Wales or those whose literary formations are closely related to Wales. We can find one of its distinctive feature in the fact that most of the works have been created by writers whose background cannot be said to be that of ruling classes. Studies of Welsh Writing in English is a field of research that has come to be vigorously developed in and outside Wales. This course will read its representative literary works as we are looking at the outline of the recent development of the academic studies
5. 学修の到達目標：(1) 想像的ないしは理論的な書き物の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand basic forms of fictional or theoretical writings
(2) To understand literature as a medium of communication
(3) To build up a competency to read English literary texts
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Introduction: What is Welsh Writing in English?
 2. Reading Welsh Writing in English (1)
 3. Reading Welsh Writing in English (2)
 4. Reading Welsh Writing in English (3)
 5. Reading Welsh Writing in English (4)
 6. Reading Welsh Writing in English (5)
 7. Reading Welsh Writing in English (6)
 8. Overview of the Course (1)
 9. Reading Welsh Writing in English (7)
 10. Reading Welsh Writing in English (8)
 11. Reading Welsh Writing in English (9)
 12. Reading Welsh Writing in English (10)
 13. Discussion (1)
 14. Discussion (2)
 15. Overview of the Course (2)
8. 成績評価方法：

授業参加 50%・最終試験ないしはレポート 50%
9. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布します。
10. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること
Students are required to read the assigned part before each class.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし

科目名：英文学講読／ English Literature (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB61204, 科目ナンバリング：LHM-LIT319E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Postwar British Fiction

2. Course Title (授業題目)：戦後の英国のフィクション

3. 授業の目的と概要：This course will consider the period of the “Postwar” in British Literature (1945-2000s). We will read a selection of short stories and study them in the literary, historical and cultural context of literature after World War Two. Topics for study will include: the style of the short story; social class and change in post-war Britain; gender and identity; science, technology and the environment; understanding literary history and periodization of the modern.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このコースでは、イギリス文学における「戦後」の期間(1945-2000年代)について考察します。私たちは、第二次世界大戦後の文学の文学、歴史、文化の文脈で短編小説の選択を読み、それらを研究します。研究のトピックは次のとおりです。短編小説のスタイル。戦後の英国における社会階級と変化。性別とアイデンティティ; 科学、技術および環境; 文学史と現代の時代区分を理解する。

5. 学修の到達目標：1: To read short stories in English

2: To understand the literary and cultural contexts of literature since 1945.

3: To improve comprehension skills in English through class presentations and discussion

4: To write academic compositions in English

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1：英語で短編小説を読む

2：1945年以降の文学の文学的および文化的文脈を理解する。

3：クラスのプレゼンテーションとディスカッションを通じて英語の理解力を向上させる

4：英語でアカデミックな作文を書く

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction

2: Elizabeth Bowen, “Mysterious Kor”

3: Graham Greene, “The Invisible Japanese Gentlemen.”

3: Jean Rhys, “The Lotus”

4: Ted Hughes, “The Rain Horse”

5: Alan Sillitoe, “The Fishing-Boat Picture”

6: Doris Lessing, “To Room Nineteen”

7: Muriel Spark, “The House of the Famous Poet”

8: J.G. Ballard, “Memories of the Space Age”

9: Fay Weldon, “Weekend”

10: Beryl Bainbridge, “Clap Hands, Here Comes Charlie.”

11: Angela Carter, “Flesh and the Mirror”

12: Anna Kavan, “Julia and the Bazooka”

13: China Mieville, “Entry Taken from a Medical Encyclopedia.” *

14: Ali-Smith, “The Universal Story”

15: Conclusion

8. 成績評価方法：

Assessment: mid-semester test 20%, final exam 20%, two short assignments 60%

9. 教科書および参考書：

Bradbury, Malcolm, ed. The Penguin Book of Modern British Short Stories. (1987). Penguin, 2011.

Some stories will be provided as photocopies, or can be found online.

10. 授業時間外学習：2 short quizzes

Short writing assignments (paragraphs and reaction comments)

1 essay

2つの短いクイズ

短い文章の課題（段落と反応のコメント）

1 エッセイ

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

Office Hour Wednesday 1300-14.30 Arts 832

科目名：英文学演習 I / English Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：大貫 隆史

コード：LB52305, 科目ナンバリング：LHM-LIT320J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Jane Austen, Mansfield Park (1)
2. Course Title (授業題目)：Jane Austen, Mansfield Park (1)
3. 授業の目的と概要：ジェイン・オースティン『マンスフィールド・パーク』の前半を読んでいきます。『センスとセンシビリティ』は、それ自体読み物としてもとても面白いものですが、同時に、「結婚」や「成長・改良 (improvement)」、さらには「産業革命」という、じつは私たちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course will read the former half of Jane Austen's Mansfield Park. Whereas we can literally enjoy reading this work, we must not ignore the fact that this novel deals with so familiar issues from "marriage" through "improvement" even to "the industrial revolution." At each class session, one or two students will be asked to translate and make a comment on the assigned part.
5. 学修の到達目標：(1) 小説の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To understand basic forms of the novel
(2) To understand literature as a medium of communication
(3) To build up a competency to read English literary texts
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Mansfield Park (1)
 3. Mansfield Park (2)
 4. Mansfield Park (3)
 5. Mansfield Park (4)
 6. Mansfield Park (5)
 7. Mansfield Park (6)
 8. まとめ (1)
 9. Mansfield Park (7)
 10. Mansfield Park (8)
 11. Mansfield Park (9)
 12. Mansfield Park (10)
 13. Mansfield Park (11)
 14. ディスカッション
 15. まとめ (2)
8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・レポートないしは試験 50%
9. 教科書および参考書：

Jane Austen, Mansfield Park (Penguin Classics)
10. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること
Students are required to read the assigned part before each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅱ／ English Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：大貫 隆史

コード：LB62306, 科目ナンバリング：LHM-LIT321J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Jane Austen, Mansfield Park (2) and Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day
2. Course Title (授業題目)：Jane Austen, Mansfield Park (2) and Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day
3. 授業の目的と概要：ジェイン・オースティン『マンズフィールド・パーク』の後半を読んでいます。『センスとセンシビリティ』は、それ自体読み物としてもとても面白いものですが、同時に、「結婚」や「成長・改良 (improvement)」、さらには「産業革命」という、じつは私たちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。『マンズフィールド・パーク』終了後、カズオ・イシグロ『日の名残り』も読解する予定です。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will read the latter half of Jane Austen's Mansfield Park, and Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day. Whereas we can literally enjoy reading Austen's work, we must not ignore the fact that this novel deals with so familiar issues from "marriage" through "improvement" even to "the industrial revolution." At each class session, one or two students will be asked to translate and make a comment on the assigned part. After reading Mansfield Park, we will use four or five weeks on reading Ishiguro's work
5. 学修の到達目標：(1) 小説の基本的な形式について理解を深める
(2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
(3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand basic forms of the novel
(2) To understand literature as a medium of communication
(3) To build up a competency to read English literary texts
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. Mansfield Park (12)
 3. Mansfield Park (13)
 4. Mansfield Park (14)
 5. Mansfield Park (15)
 6. Mansfield Park (16)
 7. Mansfield Park (17)
 8. まとめ (1)
 9. Mansfield Park (18)
 10. Mansfield Park (19)
 11. Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day (1)
 12. Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day (2)
 13. Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day (3)
 14. Kazuo Ishiguro's The Remains of the Day (4)
 15. まとめ (2)
8. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・レポートないしは試験 50%
9. 教科書および参考書：

Jane Austen, Mansfield Park (Penguin Classics)
10. 授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習してくること
Students are required to read the assigned part before each class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅲ／ English Literature (Seminar) III

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LB51205, 科目ナンバリング：LHM-LIT322E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Cranford and Victorian Culture

2. Course Title (授業題目)：克蘭フォードとビクトリア朝の文化

3. 授業の目的と概要：In this class we will read the short novel Cranford (1853) by Elizabeth Gaskell. This is a comic description of life in small town in Victorian England yet is also shows us a lot about changing ideas and contexts of 19th century Britain (the Victorian period). Therefore, during the class we will study the many aspects of Victorian culture and society that are mentioned in the novel: the role of women and men; the English class system; the railways and the industrial revolution; the countryside and the city; the impact of the British Empire and globalization.

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：のクラスでは、エリザベスギヤスケルの短編小説、克蘭フォード (1853) を読みます。ビクトリア朝の小さな町での生活をコミカルに描いたものですが、19 世紀のイギリス (ビクトリア朝時代) のアイデアや文脈の変化についても多くのことを示しています。したがって、クラスは小説で言及されたビクトリア朝の文化と社会の多くの側面を研究します。女性と男性の役割。英語のクラスシステム。鉄道と産業革命。田舎と街。大英帝国とグローバリゼーションの影響。

5. 学修の到達目標：1: Read a Victorian novel

2: Understand the context of 19th century literature and culture

3: Improve skills in English academic writing and communication

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1：ビクトリア朝の小説を読む

2：19 世紀の文学と文化の文脈を理解する

3：英語の作文スキルを向上させる

4：英語で聞く

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Week 1 Introduction

Week 2 Chapter I “Our Society”

Week 3 Chapter II “The Captain”

Week 4 Chapter III “A Love Affair of Long Ago”

Week 5 Chapter IV “A Visit to an Old Bachelor”

Week 6 Chapter V “Old Letters” & Chapter VI “Poor Peter”

Week 7 Chapter VII “Visiting” & Chapter VIII “Your Ladyship”

Week 8 Chapter IX “Signor Brunoni” [mid-semester test]

Week 9 Chapter X “Panic” & Chapter XI “Samuel Brown”

Week 10 Chapter XII “Engaged to be Married”

Week 11 Chapter XIII “Stopped Payment”

Week 12 Chapter XIV “Friends in Need”

Week 13 Chapter XV “A Happy Return”

Week 14 Chapter XVI “Peace to Cranford” & Conclusion

Week 15 Final Exam

8. 成績評価方法：

Two written assignments and reaction comments (60%) mid-term quiz (20%) Final quiz (20%)

9. 教科書および参考書：

Elizabeth Gaskell, Cranford, edited by Patricia Ingham (Penguin 2005).

1 0. 授業時間外学習: 2 short written assignments

2 quizzes

Online reaction comments after class

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他: なし

This class will be mostly taught in English.